

トヨコ通信

2011年5月号

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>
e-mail ssanbal@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会
発行日 : 2011年 5月 10日 第108号
連絡先 : 大垣市室本町5-8
日本共産党大垣市後援会
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部内資料

国保料の引き下げ、自然エネルギー、議会改革など 公約実現にがんばります



↑支持者から当選を祝ってもらいました

ご支持、ご支援をいただいたみなさん、ありがとうございました。今回の大垣市議会議員選挙では、「いのちとくらし 安心のまちづくり」をスローガンに掲げて選挙をたたかい、多くの方から賛同をいただきました。特に高すぎる国民保険料の引き下げや、垣老を拡充して安心して医療にかかれるようにするなど、高齢者福祉への関心を強く感じました。

また、今回は未曾有の大震災の直後に行われた選挙でもありました。私は単なる防災ではなく、日ごろの福祉を充実することで、震災などの非常事態にも負けないまちづくりを訴えました。原発ではなく、地域でまかなえる自然エネルギーへと、市が率先して転換するよう努力します。

3期目は、今まで取り組めなかった地域経済の問題に取り組みます。大垣市の顔である中心市街地の活性化、そして雇用の拡充など、市民の生活基盤である地域経済をいかに元気にするか。業者や商店街の方々と話し合いながら政策を作り上げていきます。

大垣市議会議員 笹田トヨコ



↑商店街を歩いて訴えました



↑選挙中に誕生日



↑シンポジウム形式の個人演説会



↑精力的に訴えました

教育の現場が臨時に

3月議会では保育園等における臨時職員の問題について取り上げましたが、教育の現場でも同じ状況が出ています。学校現場では正規教職員の欠員を臨時教職員(講師)で補っているため、非常勤講師が慢性的に不足しており、講師バンクがあっても常に講師探しで四苦八苦をしているとのこと。一方、非常勤講師はあちこちの学校を掛け持ちし労働契約書もなく、電話での口約束とは違うこともあります。

西濃3ヶ所かけもち…ある非常勤講師の実態

この講師は、大垣市を含め西濃地域の学校3カ所を受け持っています。学校毎に時給が違い、ある学校では教科指導は県費の2315円/時間だが、給食や部活・掃除などの指導は680円/時間と、最低賃金にも満たない金額です。クラスの子どもの状況について担任と情報を共有する場がないこと。また、「予算を使ってしまった」と年度途中で授業を終了するようにいわれたが、当然受け持っている教科は途中であるため、残りの12時間はただ働きでした。

学校全体のまとまりに支障

以前は、正規の教職員で対応できていましたが、今は病休や産休の欠員補充だけでなく、美術や家庭科などの教科も非常勤講師で対応していることがあるようです。その他、ITで入っている先生や水都っこプランの先生など、様々な非常勤の教師が入り混じり、打ち合わせの時間もままならない状況です。これでは勤務表を組む学校現場も大変で、学校全体のまとまりに支障をきたすのではないのでしょうか。

大垣駅前をどうするのか？

大垣駅南街区市街地再開発事業について

3月議会では、「大垣駅南街区市街地再開発事業」の進捗状況が報告されました。そして23年度は、「事業計画」の策定のために施設建築物の基本設計等に補助金として8920万円が予算化されています。

(事業及び建築概要)

施行者：(仮称)大垣駅南街区市街地再開発組合

所在地：大垣市高屋町1丁目、宮町1丁目、見取町4丁目

地区面積：約1.5ha(接道1/2含む)

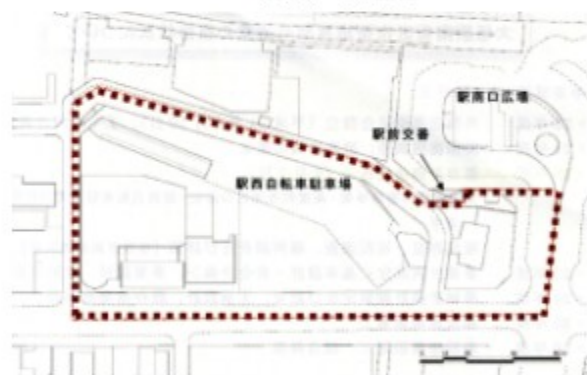
総事業費：約78.5億円

施設計画：水路西側 - 北棟→25階建

平屋棟(北棟隣接)

西棟→6階建

南棟→3階建



↑区域図



↑見下ろすように立つビル

延床面積 - 約37,000m²

主な用途 - 商業・業務系施設、福祉・医療施設、公共公益施設、一般分譲マンション、高齢者向け住宅など

水路東側 - 広場(空地)など

公共施設 - 地区内の道路・水路移設など

*敷地を整理し、土地の有効活用を図る

3月議会で報告された事業概要は、当初の案より高層建築(17階建から25階建)となり、総事業費も70億円から78.5億円になっています。

大垣市の顔、大垣南街区を市民の目線で検討

大垣市の顔となる大垣駅南街区の姿が、どのようなものがふさわしいのか、いくつかの点から検討する必要があります。

- ・景観上どうなのか？大垣駅南街区の景観が大垣城も含め中心市街地全体と調和のとれたものになっているか？
 - ・大垣駅はJR・近鉄養老線・樽見鉄道など鉄道やバスなど公共交通の結節点であり、集客を効果的に受け入れる場になっているか？また、街の活性化から見た交通政策を検討する必要がある。
 - ・費用対効果の点ではどうなのか？(岐阜市の再開発事業から学ぶ必要がある：右コラム参照)
 - ・高層建築が防災上いかなものか？
- 等など、いくつかの検討が必要だと思います。

駐輪場有料化の混乱について

5月1日より、自転車駐輪場の有料化が始まりましたが、市外から通っている高校生たちが、有料化になったことを知らず、混乱があったと聞いています。また、「定期利用」の申し込みが殺到して、待機者が多数いるということで、生活安全課で状況を聞きました。

定期利用の希望者が予想以上に多く、東駐車場から西駐車場に移ってもらうなどして調整したが、現在も北、東駐車場で「定期」希望で「待ち」になっている人が、

岐阜駅前再開発事業の状況

岐阜駅前再開発の目玉として建てられた駅西のタワー型ビル(「GIFU CITY TOWER43」43階建て)ですが、買い手は高額所得者と投機(転売)目的の購買者だというのが実態です。そして住民は、名古屋で買い物してくるから周辺で買物をしないし、買い物しようにも近くで日用雑貨を買う場所がない状況です。

テナントは問題が続出

公共的な施設として老人マンションが入っているのですが、地表から遠く生活感がないためか、認知症が進んだり、避難訓練(徒歩)に参加できなかったりと、そこでの生活はうまくいっていません。

地権者たちは新しいテナント料が高くて出店できず、遠方に移っています。一方、新しく入った商店も長続きせず、ビル内の人通りもまばらで、商業施設として成功したとは言い難い状況です。出資した県は費用を回収は困難との見方もあります。

魅力的な住環境を創出できるか？

岐阜市には、郊外に安くて広い住宅地があるのに、わざわざ狭くて高くして生活しにくいところに住もうとは思わないでしょう。また、駅前居住を打ち出し、名古屋からの移住者に狙うこともできますが、名古屋より近い一宮、生活環境のいい西岐阜駅周辺が競合しています。現状ではあえて岐阜駅周辺を居住地として選ぶメリットはなく、建物はあっても活用されていない状況です。

約100人程度いる、一時利用枠を調整したり、夜間昼間利用状況をつかんで、希望者全員に定期利用券を発行できるようにする、とのことでした。

そのほかに、「回数券を発行してほしい」という要望も伝えました。